

女子大学現代社会学部 国際教育フォーラム

小学校の英語教育はなぜ必要か、 どうあるべきか

—ドイツ・シュタイナー学校の先進的な取り組み—



女子大学現代社会学部教授
広瀬 俊雄

世界に広がるシュタイナー教育に学ぶ

今から6年前、朝日新聞は、学芸欄で「世界に広がる教育の夢」との見出しで、シュタイナー教育を大きく取り上げた（1998年1月22日付、広瀬俊雄執筆）。それは、この教育が不登校、いじめ、学級崩壊、ゆとり教育、学力向上、小学校への英語教育の導入、その他の多くの問題を抱えるわが国の教育界に解決の手がかりを提供するものと思われるからである。

ドイツ、アメリカなどの世界57カ国に広がり、80年以上の歴史を持ち、その適切さが実証されているシュタイナー学校の教育には、目を見張るものが多い。みずみずしい知性の育成、豊かな芸術性と宗教性、個性と国際性を支えとするこの学校の教育は、世界各国で高い評価を受けている。この学校の教育で注目すべきものの一つは、小学校一年生から始まる2カ国の外国語の教育である。このたびは、ドイツのシュタイナー学校の英語教育の権威であるクリストフ・ヤフケ博士を招き、講演会を

開いた。当日は200人を超える人々が博士の講演に熱心に耳を傾け、その学校の見事な英語教育について学んだ。

英語教育はいつから始めたらいいか

今、わが国では、小学校への英語教育の「正式」導入が教育改革の焦点の一つになっているが、何学年から始めるべきか、その内容はどうすべきか、中学校の英語との関連はどのようにするのか、等々について明確な答は何一つ出ていない。

シュタイナー学校では、英語教育は、小学校1年から始めるのが最適との明確な考えで、この教育が導入され、12学年（日本の高校3年生に相当）まで一貫体系的に行われる。ヤフケ博士によれば、英語教育を小学校一年から導入するのは、子どもの「発達段階」からみると、この学年が外国語の習得開始に最もふさわしい能力をもつ年齢だからである。入学前の幼児期に英語教育を始め行うのはよくない。この時期は母国語の教育だけでよい。

英語教育は世界観の拡大・豊かな精神的な生活のため



講演者 クリストフ・ヤフケ博士

一体、英語教育は何をめざすものなのか。ヤフケ博士によれば、英語を学ぶ目的としてしばしばコミュニケーションがあげられるが、シュタイナー学校では、それも考慮しつつ、もっと大きなこと、即ち一人ひとりの生き方を支える「世界観」の拡大と豊かな「精神的な生活」の享受をその目的としている。この地球上で

私たちが平和に共存していけるためには、狭い見方・考え方ではなく、広い世界観を持ち、豊かな精神的な生活を一人ひとりが営むことが求められるからである。英語を学ぶことは、そのことに極めて大きな力を発揮する。

リズムや身振り等を取り入れて英語教育を

発達段階の視点でみると、小学校の時期は、こどもが「リス

ム」で遊び、「活動的」に生きることを最も強く欲する時期である。また、言葉それ自体はリズム性に富むものである。だから、英語教育は、リズムを存分に取り入れ、身体活動を導入して、ダイナミックに行われなくてはならない。特に低学年ではそれが必要であり、重要である。シュタイナー学校では、英語の時間に身体をリズムカルに動かしつつ英語で歌ったり、英語の詩などリズムをつけて口に出して学ぶ。また、活動的なゲームなども取り入れる。楽しさが増すからである。3年生までは、聞くと言葉の英語教育に力点が置かれ、文字や文章の読み書きは一切しない。それがはじまるのは4年生以降である。

なお、英語教育で大切なのは、子どもと教師との信頼関係、教師によるなまの英語および翻訳なしの英語教育である。英語担当の教師は子どもから深い信頼を得ていなくてはならない。教師の人格の表現としてのなまの言葉を大切にすることがゆえに、この学校ではテレビやビデオの使用は不可。授業では翻訳は行わず、イギリスの子どもが英語を学ぶのと同様の方法で、英語を学ぶことが小学校では重要視される。

目からウロコ—参加者の感想—

今回の講演に対して、聴衆の多くから、小学校への英語教育導入の意義とその方法について根本的なことを目からウロコが落ちる思いで学んだ、との感想が寄せられた。

（国際教育フォーラムは5月21日、女子大学京田辺キャンパスにおいて2部構成で開催し、市民にも公開された。本稿は第1部の報告である）

同志社小学校のめざす教育とカリキュラム

7月16日に同志社大学今出川キャンパスにおいて、午前・午後あわせて計3回の学校説明会を開催しました。保護者、卒業生、一般の方々など延べ2400人の出席があり、同志社小学校に対する関心の高さがうかがえました。

同志社小学校のめざす教育

小学校は、単なる知識習得の場ではありません。子どもたち一人ひとりの人格を磨き、形成し、人間力を高める場であり、こども同士、こどもと教員が、互いの心を響かせ共鳴し合い、ものごとの本質を自らのものとして取り込みながら学んでいくことが学習活動の基本的な営みであると、同志社小学校では考えています。「人」「自然」「もの」とふれ合う体験活動や、多様な文化的活動の中で、知的好奇心で胸をいっぱい膨らませながら探求し交流し、子どもたちそれぞれが主体的に学びを深め広げていく、同志社小学校ではこの様な教育をめざします。現代社会では、スピード化や効率化が常に求められています。

しかし、本来子どもは、様々な体験を通してその過程で成功や失敗を経験し、一見無駄とも思える寄り道や道草をも含めた体験を重ねる中で、内面から成長していくものであり、その成長過程では無駄や失敗、道草といったものが発達の肥やしとなります。このように、同志社小学校は、子どもたちが内側から学び続けることを大切にしている学校であり、当たり前のことを当たり前前に大切にしている学校でありたいと考えています。

教育理念とカリキュラム

同志社教育の基本理念である「キリスト教主義」「自由主義」「国際主義」。同志社小学校では、これらの理念に基づいて「良心の涵養」「自治自立精神の形成」「国際人の育成」を教育理念としています。

毎日の礼拝と宗教の時間

小学校の1日は朝の礼拝から始まります。毎日の礼拝と週1時間の宗教の時間を通して、こころ豊かで調和のとれた

人格形成を図ります。

真の国際人となるために

毎日20分間継続して行われる英語学習に加え、ネイティブ教員による英語授業。また、同志社大学への留学生との交流を通して、多様な文化を理解し、コミュニケーション能力の向上を図ります。そして、6年生では創立者新島襄が学んだアームスト大学への修学旅行により、それまで学んできたことを実践します。

ことばの時間

読書、朗読・暗誦、書き綴ることなどに取り組む時間として、毎日20分間のことばの時間を設けています。このように日本語学習と英語学習を毎日継続することにより、ものごとを考え、理解し、自分のことばで表現する力をつけ、国際社会で通用するコミュニケーション能力を身につけていきます。

本物とのふれあい

各界の第一線で活躍されている同志社卒業生や同志社大学の学生からの指導を通して、「本物」にふれ、知性、感性を磨く時間として「同志社タイム」を設けています。

体験型学習

日常とは違う体験や取り組み、その過程での成功や失敗を通して、子どもたちは多くのことを学び取ります。各学年で一つのことに取り組む「チャレンジウィーク」や豊かな自然に囲まれた同志社びわこリトリートセンターでの宿泊体験学習などを設けています。

その他学校生活

給食

京都宝ヶ池プリンスホテルによる給食を実施します。校舎内に調理室、配膳室を設け、子どもが調理風景を見、音を聞き、おいしそうなにおいが漂うといった五感で味わうことのできる給食を提供します。また、家庭科室がランチルームとして利用できるようにデザインされており、異学年2クラスで交流しながら楽しく給食をいただくことができます。

制定品

学校法人同志社の各校と同様、制服はありません。帆布製の通学かばん、体操服、上靴を制定品としています。

校歌

童謡「サツちゃん」「いぬのおまわりさん」などの作曲で有名な大中恩先生に作曲を、現代を代表する詩人である谷川俊太郎先生に作詞を依頼しています。

大中先生のご尊父は、「椰子の実」の作曲で有名な同志社出身の作曲家・大中寅二先生で、「同志社校歌」「庭上の一寒梅」など同志社ゆかりの曲を作曲された方でもあります。

また、谷川俊太郎先生のご母堂が同志社女学校出身であることなど、同志社ゆかりの先生方に校歌をお作りいただいています。

2006年度同志社小学校の児童募集

■募集人員・考査日程

新1年生：男女合計90人

出願期間	2005年9月5日(月)～9日(金)
考査日程	1次：女子 2005年10月8日(土) 男子 2005年10月9日(日)
	2次：2005年10月15日(土)・16日(日)
合格発表	2005年10月18日(火)

新2年生：男女合計60人

出願期間	2005年12月5日(月)～9日(金)
考査日程	1次：2006年1月14日(土) 2次：2006年1月21日(土)
合格発表	2006年1月26日(木)

新3年生：男女合計60人

出願期間	2005年12月5日(月)～9日(金)
考査日程	1次：2006年1月15日(日) 2次：2006年1月22日(日)
合格発表	2006年1月26日(木)

※各学年とも2次考査まで予定しています。2次考査は、1次考査合格者のみが対象となります。

■学校案内・募集要項・入学願書の配布

同志社大学今出川キャンパスの正門および西門門衛所、京田辺キャンパスの正門門衛所で配布しています。また、郵送をご希望の場合は、下記のいずれかの方法で、郵便番号、住所、氏名、電話番号、希望学年（新1年生用、新2年生用、新3年生用）を明記の上、お申込みください。学校案内・募集要項・入学願書を送付させていただきます。送付料につきましては、申し訳ございませんがご負担いただきたく存じます。送付時に明細を同封させていただきますので、折り返し金額分の郵便切手をお送りください。

- 1) FAXでのお申込み
同志社大学附属小学校設置準備室：075-251-3028
- 2) ハガキでのお申込み
〒802-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
同志社大学附属小学校設置準備室
- 3) 電子メールでのお申込み
同志社大学附属小学校設置準備室：ji-elejm@mail.doshisha.ac.jp

■入学考査料

20,000円

■学費等

入学金	130,000円
授業料	720,000円（年額）
教育充実費	150,000円（年額）

※その他、給食費（年額約10万円）、教材費、修学旅行積立金、保護者会費などを予定しています。

※また、制定品として、かばん、体操服などを予定しています。